
放課後の教室

湖宇

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

放課後の教室

【Nコード】

N2155C

【作者名】

湖宇

【あらすじ】

もう少しこのままでいいかな。自分から終わらせることなどいつでもできるんだから。

放課後の教室。

外では雨が降って世界はモノクロ。

窓ガラスに触れると、

触れた場所から冷たい何か、

体を覆っていく感触がした。

「ここから飛び降りたら死ぬよな」

「なにそれ、死にたいわけ？」

「別に、ただ何もかも面倒になった」

「ふーん、不道德だね」

死んでしまえば楽になる。

まあ、そう思ったって、

本当に飛び降りるわけじゃない。

自殺するほど追い詰められてるわけでもないし、不幸のどん底にいるわけでもない。

ただプレッシャーに押しつぶされて、呼吸の仕方が分からなくなっただけで。

「ためしに死んでみたら？」

「俺に死んで欲しいのかよ？」

「あはは、何その顔。嘘に決まってるじゃん」

真実はどっちでしょう？

そう言ってお前は笑う。

そういう軽い所が俺は好きだけどね。

「……試しに死んでって言うてみるよ」

「なにそれ」

もしお前が死んでってヒトコト言えば、

今の俺は何の躊躇もなく死ねると思う。

そう、ただヒトコト…きっかけがあれば。

「うーん、ヤダ。言わない」

「なんで？」

「言ったら死んじゃうでしょ？そんなの淋しくなる

から、いや」

「わあ、

ありきたりでなんのひねりもない台詞。

けどこんなにも嬉しいのは、

きつとこいつが特別だから。

「・・・帰えるか」

「そうだねえ、そろそろ帰ろっか」

外に出ると雨が止んでいた。

そのせいか空気が冷えている。

「君は心のビョーキなの？」

「はあ？俺、そんなに病んでるようには見えるか？」

「まあねー、かなり見えるよ？まあどっちでもいい

「や

「そうかよ。おら、行くぞ」

「はあーいよっ」

お前がいるだけで、

ただ苦しいだけの世界が色を変える。

お前のヒトコトで、

いつも俺は救われるんだ。

もう少しこのままでいいかな。

自分から終わらせることなどいつでももできるんだか

5。

(後書き)

必要なときに必要な言葉をくれる人間は少ないですね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2155c/>

放課後の教室

2011年1月26日12時35分発行